

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 株式会社 日本一ソフトウェア
 コード番号 3851 URL <http://www.nippon1.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

(氏名) 北角浩一
 (氏名) 世古哲久

TEL 058-371-7275

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	1,318	—	0	—	△11	—	△110	—
20年3月期第3四半期	1,347	—	172	—	149	—	78	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△5,221.41	—
20年3月期第3四半期	3,830.30	3,651.37

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭	%	円 銭
21年3月期第3四半期	2,216	—	1,038	—	46.8	49,679.61	—	49,679.61
20年3月期	2,174	—	1,213	—	55.8	57,776.72	—	57,776.72

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 1,038百万円 20年3月期 1,213百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	250.00	250.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	200.00	200.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,034	△5.2	100	△69.3	80	△71.7	△1	—	△87.09

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 21,187株 20年3月期 21,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 290株 20年3月期 1株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 21,121株 20年3月期第3四半期 20,547株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針14号)適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サブプライムローンを発端とした世界的な金融危機による株価の下落、急激な円高の影響により、企業の設備投資や個人消費が減少し、景気の減速により厳しさが増しました。

当社が属しておりますコンシューマゲーム業界におきましては、複数のハードにおいてモデルチェンジが行われるなど、今まで以上にユーザーのニーズに対応をしていくことが重要となっております。モバイルゲーム業界におきましては、ユーザー数としては拡大傾向ですが、ターゲットを絞ったタイトルを配信することが必須となっております。アミューズメント業界におきましては、ガソリン価格の高騰・家庭用ゲームの売れ行きが好調などの要因により、大手アミューズメント施設の集客率が低下しております。

このような環境の下、コンシューマ事業におきましては、ニンテンドーDSへの新規参入を果たすとともに、市場動向を把握するためにマーケティングリサーチを行うなどの施策を行ってまいりました。モバイル事業におきましては、ユーザーの獲得に注力を進めてまいりました。アミューズメント事業におきましては、厳しい事業環境の中、次期以降の収益獲得に向けて、施設の増床などを行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,318,277千円（前年同期比2.2%減）、営業利益816千円（前年同期比99.5%減）、経常損失11,786千円（前年同期は149,847円の経常利益）、四半期純損失については、当第3四半期決算において繰延税金資産53,615千円の全額取崩しを行った影響を受け110,300千円（前年同期は78,700千円の四半期純利益）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

（コンシューマ事業）

当事業におきましては、国内外合わせ全12タイトルを発売いたしました。

国内市場におきましては、今期から新たに参入をしたニンテンドーDSから、当社主力シリーズより『魔界戦記ディスガイア 魔界の王子と赤い月』を含む4タイトルを発売いたしました。

また、当社として新たなジャンルであるアクションゲーム『プリニー ～オレが主人公でイインスカ?～』（PlayStation Portable専用ソフト）を発売いたしました。その他にも、『インフィニットループ ～古城が見せた夢～』（PlayStation Portable専用ソフト）など、新規ユーザーの獲得に注力をしてまいりました。

海外事業におきましては、『DISGAEA 3』（PLAYSTATION 3専用ゲームソフト）、『DISGAEA』（ニンテンドーDS専用ゲームソフト）、『Rhapsody』（ニンテンドーDS専用ゲームソフト）を発売し、当社国内ライセンスソフトのローカライズ版の制作に注力してまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,205,933千円（前年同期比1.6%増）、営業利益191,353千円（前年同期比42.9%減）となりました。

（モバイル事業）

当事業におきましては、携帯電話向けアプリゲームのラインナップを充実し、ユーザー満足度の向上に力を入れてまいりました。6月にはiモード向け携帯電話用アプリゲームとして、やりこみ要素満載の超ド級本格RPG『ドラゴンヴェイン』及びディスガイアシリーズの世界観を継承した学園コミュニケーションRPG『魔界学園ディスガイア』の配信を開始いたしました。また、コンシューマ事業で発売をしたタイトルのデジタルコンテンツの充実に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高56,366千円（前年同期比15.8%減）、営業損失10,116千円（前年同期比3.0%増）となりました。

（アミューズメント事業）

当事業におきましては、アミューズメント施設の運営等を行ってまいりました。また、施設の増床を行うなど次期以降の収益性を上げるために努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高32,192千円（前年同期比55.0%減）、営業損失28,228千円（前年同期比26.6%減）となりました。

（その他の事業）

当事業におきましては、今期発売をしたタイトルの関連グッズを発売するなどの施策を行ってまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高23,786千円（前年同期比7.7%増）、営業利益9,881千円（前年同期比35.5%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、2,216,211千円となり、前連結会計年度末に比べ41,747千円増加となりました。

主な流動資産の増減は、現金及び預金の増加（前連結会計年度に比べ33,209千円の増加）、受取手形及び売掛金の減少（前連結会計年度に比べ65,338千円の減少）等によるものであります。

主な固定資産の増減は、投資有価証券の減少（前連結会計年度に比べ20,103千円の減少）等によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は1,178,056千円となり、前連結会計年度末に比べ216,903千円の増加となりました。主な流動負債の増減は、買掛金の減少（前連結会計年度に比べ25,442千円の減少）、短期借入金の増加（前連結会計年度に比べ210,000千円の増加）等によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,038,154千円となり、前連結会計年度末に比べ175,156千円の減少となりました。

主な純資産の増減は、ストックオプション権利行使に伴う、資本金、資本剰余金の増加、四半期純損失による利益剰余金の減少等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は499,825千円となり、前連結会計年度末に比べ73,269千円の増加となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は52,077千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失11,903千円、たな卸資産の増加額185,400千円、仕入債務の減少額21,894千円、法人税等の支払額84,420千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,049千円となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入333,759千円、投資有価証券の取得による支出333,376千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は160,576千円となりました。これは主に、短期借入金の純増額210,000千円、長期借入金の返済による支出29,173千円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、当第3四半期の進捗状況及び今後の受注状況等を勘案し、通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成21年2月6日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 税金費用については、海外連結子会社については、四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

② 定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を当連結会計年度に係る第1四半期連結会計期間より適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。これにより、営業利益、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

③ 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告18号）を当連結会計年度に係る第1四半期連結会計期間より適用しております。これにより、営業利益、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

④ 「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号）を当連結会計年度に係る第1四半期連結会計期間より早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べて営業利益、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	579,825	546,616
受取手形及び売掛金	144,321	209,660
商品及び製品	66,317	10,953
仕掛品	374,206	250,280
その他	96,212	132,775
流動資産合計	1,260,883	1,150,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	450,737	474,798
土地	192,469	192,469
その他（純額）	59,578	58,596
有形固定資産合計	702,785	725,864
無形固定資産		
のれん	36,713	46,280
その他	76,537	85,892
無形固定資産合計	113,251	132,172
投資その他の資産		
投資有価証券	119,598	139,701
繰延税金資産	—	7,957
その他	19,692	18,481
投資その他の資産合計	139,290	166,140
固定資産合計	955,328	1,024,177
資産合計	2,216,211	2,174,463
負債の部		
流動負債		
買掛金	43,974	69,416
短期借入金	520,000	310,000
未払法人税等	16,659	44,137
賞与引当金	27,420	22,717
売上値引引当金	52,964	55,271
その他	212,146	125,550
流動負債合計	873,165	627,092
固定負債		
長期借入金	304,267	333,440
退職給付引当金	607	620
その他	17	—
固定負債合計	304,891	334,060
負債合計	1,178,056	961,152

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	240,835	239,900
資本剰余金	230,835	229,900
利益剰余金	659,986	775,536
自己株式	△16,870	—
株主資本合計	1,114,785	1,245,336
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△16,421	△298
為替換算調整勘定	△60,209	△31,727
評価・換算差額等合計	△76,630	△32,025
純資産合計	1,038,154	1,213,311
負債純資産合計	2,216,211	2,174,463

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	1,318,277
売上原価	726,153
売上総利益	592,124
販売費及び一般管理費	591,307
営業利益	816
営業外収益	
受取利息	5,234
受取配当金	1,916
その他	1,604
営業外収益合計	8,755
営業外費用	
支払利息	8,401
為替差損	12,640
その他	316
営業外費用合計	21,358
経常損失(△)	△11,786
特別損失	
固定資産売却損	117
特別損失合計	117
税金等調整前四半期純損失(△)	△11,903
法人税等	98,396
四半期純損失(△)	△110,300

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3 四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△11,903
減価償却費	76,128
のれん償却額	5,193
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,557
売上値引引当金の増減額 (△は減少)	3,092
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△13
受取利息及び受取配当金	△7,151
支払利息	8,401
為替差損益 (△は益)	△1,794
有形固定資産売却損益 (△は益)	117
売上債権の増減額 (△は増加)	65,647
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△185,400
仕入債務の増減額 (△は減少)	△21,894
前渡金の増減額 (△は増加)	△2,908
その他	99,199
小計	33,271
利息及び配当金の受取額	7,077
利息の支払額	△8,006
法人税等の支払額	△84,420
営業活動によるキャッシュ・フロー	△52,077
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△80,000
定期預金の払戻による収入	120,000
有形固定資産の取得による支出	△23,955
有形固定資産の売却による収入	153
無形固定資産の取得による支出	△16,130
投資有価証券の取得による支出	△333,376
投資有価証券の売却による収入	333,759
その他	△1,499
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,049
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	210,000
長期借入金の返済による支出	△29,173
株式の発行による収入	1,870
自己株式の取得による支出	△16,870
配当金の支払額	△5,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	160,576
現金及び現金同等物に係る換算差額	△34,180
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	73,269
現金及び現金同等物の期首残高	426,556
現金及び現金同等物の四半期末残高	499,825

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,205,933	56,366	32,192	23,786	1,318,277	—	1,318,277
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,205,933	56,366	32,192	23,786	1,318,277	—	1,318,277
営業利益又は営業損失(△)	191,353	△10,116	△28,228	9,881	162,890	△162,073	816

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation2専用ゲームソフト、PlayStationPortable専用ゲームソフト、PLAYSTATION3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

	日本 (千円)	北米 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	701,882	616,394	1,318,277	—	1,318,277
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	134,608	1,586	136,195	△136,195	—
計	836,491	617,981	1,454,473	△136,195	1,318,277
営業利益又は営業損失(△)	84,447	78,442	162,890	△162,073	816

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分の属する主な国又は地域

北米・・・米国

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年4月1日～平成19年12月31日)

科目	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)		
	金額(千円)		百分比 (%)
I 売上高		1,347,757	100.0
II 売上原価		679,325	50.4
売上総利益		668,431	49.6
III 販売費及び一般管理費		495,594	36.8
営業利益		172,837	12.8
IV 営業外収益			
1. 受取利息	10,151		
2. 受取配当金	793		
3. その他	5,250	16,195	1.2
V 営業外費用			
1. 支払利息	6,358		
2. 上場関連費用	21,940		
3. 為替差損	6,673		
4. その他	4,213	39,185	2.9
経常利益		149,847	11.1
VI 特別損失			
1. 固定資産売却損	64		
2. 和解金損失	14,000	14,064	1.0
税金等調整前四半期純利益		135,782	10.1
法人税、住民税及び事業税	66,943		
法人税等調整額	△9,861	57,082	4.2
四半期純利益		78,700	5.9

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	135,782
減価償却費	49,900
のれん償却額	7,647
賞与引当金の増加額	11,198
売上値引引当金の増減額	△10,985
退職給付引当金の増減額	△34
受取利息及び受取配当金	△10,944
支払利息	6,358
為替差損益	5,325
株式交付費	4,035
固定資産売却損	64
和解金損失	14,000
売上債権の増減額	38,443
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△399,393
前渡金の増減額	106,387
仕入債務の増減額	21,979
その他	△5,655
小計	△25,890
利息及び配当金の受取額	12,700
利息の支払額	△5,704
和解金の支払額	△14,000
法人税等の支払額	△118,368
営業活動によるキャッシュ・フロー	△151,262
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△240,000
有形固定資産の取得による支出	△237,788
有形固定資産の売却による収入	1,390
無形固定資産の取得による支出	△106,408
投資有価証券の取得による支出	△47,135
連結の範囲の変更に伴う子会社株式取得による支出	△10,963
その他	75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△640,830
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額	230,000
長期借入による収入	400,000
長期借入金の返済による支出	△89,224
株式の発行による収入	330,764
配当金の支払額	△4,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	867,290
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△12,511
V 現金及び現金同等物の増加又は減少	62,685
VI 現金及び現金同等物の期首残高	442,010
VII 現金及び現金同等物の期末残高	504,696

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,187,296	66,949	71,430	22,079	1,347,757	—	1,347,757
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,187,296	66,949	71,430	22,079	1,347,757	—	1,347,757
営業費用	852,130	76,768	109,890	6,753	1,045,542	129,377	1,174,919
営業利益又は営業損失（△）	335,166	△9,818	△38,459	15,326	302,214	△129,377	172,837